

図 D.1.20 シンポジウム アンケート結果（自由記入欄）

青少年の性の問題に対する取り組みについて

	性別	年齢	所属	自由なご意見をお聞かせください。
1	男	20	大学や専門学校など	生徒・学生を対象とした講演を増やす。
2	男	20	大学や専門学校など	コンドームの話は面白かった。
3	女	21	大学や専門学校など	青少年の親の世代に対してアプローチする。
4	男	21	大学や専門学校など	JJやレジャスポなど運動施設をつくるべき。
5	女	24	主婦	性交渉がダメ！と言っているようにしか聞こえない。ダメではなくて危険性の認識などを感じさせることが大事だと思う。
6	女	24	働いている	市民参加のシンポジウムでパネリスト以外の客席の意見が聞いて面白かった
7	男	26	働いている	性教育の青少年に対する教育を色々と増やすべき。今のままでは青少年は受身になってしまうのではないのでしょうか？
8	男	28	大学や専門学校など	親の教育を実施することは大切なことだと思います。
9	男	31	働いている	青少年への危機感を扇動するような内容を話すべき。
10	男	31	働いている	自分はチェリーボーイなので大変参考になりました。
11	女	32	働いている	今日来場してこのシンポジウムを知りました。もっと大きく宣伝してみてもいいのでは？特に若い人に伝わるように。
12	男	33	無記入	市民活動とかって、悪い方向に向かっている青少年たちは、嫌う志向にあると思われる。もっと都会に憧れているから、もっとダンススタジオとか、ライブハウスとか、気軽に利用できるほうが良いと思う。
13	男	33	働いている	親との結びつきが大切。
14	女	33	主婦	町内会で見回りなどをして、空家・子どもたちのたまり場になりそうな場所を把握しておくべきだと思う。
15	女	35	働いている	若い人には今日のような講演は退屈のような気がしました。もう少し興味を持つように工夫したらどうですか？
16	男	36	働いている	このようなフォーラムは非常に意義があると思います。
17	女	43	働いている	地域の市民団体も大事ですが、まず、家庭での性教育が大事だと思うのですが…
18	女	47	働いている	携帯の出会い系を使っている事件が釧路で増えています。心配です。
19	女	50	その他	シンポジウムは悪くないと思うが、もっとリラックスした感じで聞かせるという形ではなく、聞かせてもらうという形の方が良いと思いました。なんとなく自然ではなく、作られたシンポジウムのような感じがしましたが…？
20	女	58	主婦	親子で性のことについて知識を深める場を持つことを望んでいます。
21	女	65	その他	今日のようなイベントの回数を増やし、市民・学生の啓蒙となるように思います。

図 D.1.21 「時間的余裕」に関する意見

立場	発言
行政	高校生の性交渉経験率は対策をはじめて以来減少している。その背景として、本人の意識の変化や家族の意識の変化があるのではないか。
教育機関	いい付き合いができればよく、遊び場やできることをうまく見つけていくことが必要。
医療機関	時間的余裕としては、その時間の長さよりもカップルが二人で過ごす時間をどう使うかをもてあましているのが問題ではないか。
医療機関	時間があるときに何をするか、携帯電話以外の、二人でしっかり会話ができるようなコミュニケーションが大切。
まちづくり	学校での週休二日制の導入の名目として、増えた休みの日にボランティアをしよう、というのがあったはずが、単に遊びに行くため、みたいになっていて、その遊びの選択肢が無くて困っている。
まちづくり	課外活動の推進をしていきたい。市民活動拠点で世代間交流ができれば視野も広がってよい。
まちづくり	地域コミュニティとして大学・高校とネットワークを作って情報発信をしたい。
まちづくり	学校ぐるみで若者主体で参加できるイベントを、商店街を利用してもっと作りたい。
まちづくり	若い人のアイデアからイベントを作っていくことはまちづくりにもなる。
来場者	夏は外に出られるが冬はインドアになるので、カップルの共通の趣味があれば良いが、無ければ性交渉に至る。
来場者	暇なときはDVDなどを見ていて出歩くことは少ない。イベントがあれば行くが、行き先が2箇所くらいしかない。
来場者	地域に関わる活動をしたい学生もいるとは思いますが、情報発信が不十分。
来場者	釧路にも札幌とかにあるJJ(レジャースポット)があるといい。
来場者(親)	商店街に高校生が集える場所(みんなで楽しめる場所)を作ってもらえれば、と思う。
来場者(親)	3人以上で遊ぶ楽しみを小学校のうちからもっと学ぶべき。

図 D.1.22 「家族の性の意識」に関する意見

立場	発言
行政	親への教育も重要。
教育機関	PTA 主催で保護者向け性の講座をやっている。保護者からの悩みとしては具体的にどうやって子供と話せばいいのか、という部分。
教育機関	父から息子、母から娘への性教育(コミュニケーション)がもっと必要ではないか。
医療機関	親も含めての性教育、親同伴での性教育といったことも釧路では可能かも知れない。親もまた不適切な性交渉をしてきたかも知れないので、義務として教育をされることが必要ではないか。
まちづくり	親も勉強すべき。子供の SOS に親が気づけていないことがある。
まちづくり	釧路の場合、小学校まで上がった後は子供をほっておく親が多いように思う。
来場者	家庭によるとは思うが、親とはそういう話はしにくい。
来場者	母とよくそういう話題をするが、その結果自分で考えることができていると思う。
来場者	母親から教育はされたが、中学時代から危ない性交渉をしていた。部活はいっぱいしていて暇はなかったが。しかし、責任について母からしっかり教わったのは良かった。

図 D.1.23 「デート・性交渉場所」に関する意見

立場	発言
教育機関	自然施設では開放感から性交渉に向かう人もいるようだ。
医療機関	男がデートコースを決め、デートの最終目的が基本的に性交渉であるから、性交渉しやすい場所が含まれるのは当然。
医療機関	女性が主導権を持ってデートの目的を変えられるように話し合うことが必要。
まちづくり	若者の活動拠点をもっと作るべき。
まちづくり	若者が参加できるようなイベントをもっと紹介したい。
まちづくり	イベントがないと街には出てこない。
来場者	デートに出かける場所がないので、家での性交渉ということになっているように思う。
来場者	大人は油断していても、昼間でも子供は性交渉をしている。
来場者	まちづくりのレベルでの対策をして欲しい。
来場者	デートの場所として、大型店と家くらいしかない。イベントがあれば出かける。
来場者	意識の高い人間とそうでない人間の差が大きい。一部ではホテル飲みやカラオケで飲むのが10代から流行っていて、それが性交渉につながっている

図 D.1.24 その他意見

立場	発言
医療機関	こうした場に来る人間は問題無い。来ないように人間への対策が重要。
医療機関	釧路での中絶率は下がってきたが、性交渉数が減ったのか、安全な性交渉数が増えたのかという検証が必要。
医療機関	同じ目線で語れるように、こういう場に出た人間が、自分で考えて同じ目線でディスカッションして広めて欲しい。こうした話題をできるように支える雰囲気作りが必要。
教育機関	中学生が Sex をすること自体は否定しないが、ゴムがないときには我慢しよう、と思えるような、お互いに考えられるような意識の持ち方を伝えたい。社会的な場面で大人が教えていくべき。
来場者 (30代男性)	「まちに行く」というのは友情を作る場。人づくりはまちづくりでもある。まちの活性化もまた大切だろう。
来場者	性に対する意識は世代によってかなり違う。自分のときは性教育はちゃんとされなかった。こういう場で性について話せるというのは時代も変わってきたのかなと思う。
来場者	いろいろな情報が世の中にはあるが、大人がしっかり選別すべき。

図 D.1.25 登壇者振り返り

立場	発言
行政	準備の時間的制約を踏まえれば悪くはなかった。こうした場を繰り返すのは釧路にとっていいこと。しゃべり場のようなものはやりたい。学生への早めの巻き込みをすべき。
教育機関	会場との掛け合いがもっとあればよかった。
教育機関	学生向けの事前広報が不十分。話しやすい雰囲気作りがもっと必要。
医療機関	危機感を持ってもらえるような突っ込んだ話が出来た方がよかった。
まちづくり	3~4 ヶ月は準備に必要。もっと中高生の声が聞きたかった。会場ももっとフラットに話せた方がよかった。
まちづくり	有意義であった。次回以降あるなら、徐々に改善すれば良い。大人の目線と子どもの目線のギャップを感じた。市民・青少年も含めた連携が出来る環境の必要性を感じる。
メディア	もっと近い距離感で大人が話さないといけない。チラシ以外に足を運んでももらえるような仕掛けが必要。学生主体のイベントも、参加者を集めるのが難しい。

図 D.1.45 青少年活動拠点センター アンケート結果（自由記入欄）

釧路における性交渉回数を減らすために効果的な活動について

	性別	年齢	所属	上記以外に、効果的と考えられる活動がありましたら、自由にお書きください。
1	女	16	高等学校	教育体制云々ではなく、部活動の魅力をたくさん知ってもらうことから始めた方が良いと思います。やはり私も部長として、部活が学校に行く唯一の意義のようなものなので。強制などは絶対してはいけないことと思います。
2	女	16	高等学校	冬でも暖かいデートスポットをつくる。
3	女	17	高等学校	冬でも気軽に入れる場所をたくさん作った方が、家デートも少なくなると思う。
4	男	18	その他	お酒やタバコのイメージが変われば、多少影響あるかもしれません。
5	女	19	主婦	児童館など公共性の場所をもっと増やした方がよいと思う。
6	女	19	大学や専門学校など	バトロール
7	女	20	その他	講義などで性行為をすることでどうなるのかということを広く伝えていく。
8	男	21	働いている	性教育の徹底。
9	男	26	働いている	色々な方向に興味を持ってもらうようにしていく。そのための施設・設備などを行政・民間企業を含めて検討する。
10	男	28	大学や専門学校など	親の教育が大切だと思う。
11	女	31	働いている	パネル展や学校、公共施設での活動を多くする。
12	女	32	働いている	成人の雇用も少ないのに学生の雇用はもっと少ない。
13	女	37	働いている	環境も大切だが、自分自身を好きになれて、大切に思う気持ちが大事だと思う。自分を大切に思えば、相手に対しても思いやる気持ちができると思う。それは親や周りの大人が態度で示すしかないのでは…。子どもの教育より大人の教育。
14	女	38	働いている	実際に10代で母親になった人たちの話を聞く場を設ける。
15	女	50	働いている	親がもっと知識を得られるような広報活動をたくさんするべきだと思います。
16	男	53	働いている	自然に親しむカリキュラムをつくる。アグリ体験等、一次産業の再発見をする。
17	女	58	主婦	正しい宗教を大人が身を持って示していく。この世に生まれてきたのは自分の強い意志であり、自分の親に親になるよう頼んで生まれてきたことを知ることが大事。
18	女	67	主婦	正しい人たちの仲間作りが必要だと思う。

図 D.1.46 青少年活動拠点センター アンケート結果（自由記入欄）

『青少年活動支援センター』で提供して欲しい情報など

	性別	年齢	所属	『青少年活動支援センター』で提供して欲しい情報など、自由なご意見をお聞かせください。
1	女	17	高等学校	もっとアンケートをたくさんして、釧路の状況を教えて欲しい。
2	男	21	大学や専門学校など	市民活動は大事だと思いました。
3	男	26	働いている	各種情報の提供。今までの行政や中間支援組織で集めたり、発信するのが難しいものなど。
4	女	35	働いている	青少年に対して大人が行っている問題のある性教育が性情報、又、行動力についての調査も必要なのでは？まず、大人が反省するべき。
5	女	37	働いている	今はまだ子どもが小さいので考えたことがない。
6	女	40	無回答	託児所はどこですか
7	男	40	働いている	『青少年活動支援センター』の名前が堅苦しい。
8	男	53	働いている	イベント情報
9	女	58	主婦	命の始まりは人間の目に見えないところから始まる愛の始まりでもある。愛について知るならばこのような問題はすべて解決につながるでしょう。

図 D.1.47 青少年活動拠点センター アンケート結果（自由記入欄）

青少年の性の問題に対する取り組みについて

	性別	年齢	所属	『青少年活動支援センター』以外に、性問題に効果的な取り組みがあれば、自由なご意見をお聞かせください。
1	女	17	高等学校	できれば、中学生からはじめた方が良いのでは？一番興味の持てる年頃だし。全体的に年齢層を下げるべき。
2	男	21	働いている	イベントの企画・運営
3	女	22	主婦	もっと病気のことなどを聞かせる。
4	男	26	働いている	地域ですでに活動している団体へスポットをあてる。そういう団体に協力していただいて、活動を展開していく。それぞれの団体の活動自体も大きくなる。
5	女	32	働いている	グラフや案内がわかりづらい。読みづらい。工夫して。
6	男	40	働いている	くしろ健康祭りみたいなことを市民に周知し、無料でいろいろ受けられることが必要だと思います。
7	男	53	働いている	センターで Condom を無料配布する。
8	女	55	働いている	スポーツ・ボランティア等の活動に参加するようにするのが良いと思う。自由に遊びに走りすぎる。

図 D.1.49 2次検討会その他意見

発言
教育委員会等のトップダウンの利用が重要。
各学校へのモデル指導案の提示をすべきである。全学校に実行してもらいたい場合は、配布物は生徒の人数分コピーして学校に渡す等細かな対応が求められる。
性行動に関するデータを取るのは釧路市でも学校の反発が大きくて困難であると考えられる。
性に関する授業は同一内容を多学年に行ってもよい。
政治家の理解を得るにはメディアの利用が重要である。 釧路市の場合は理解のある政治家がいたので助かった。
メディアや地域住民にアピールするには地元のデータを取るのが大事。 釧路市なら北海道や札幌市でなく釧路市のデータが必要。
新しいものを作るのではなく現にあるものの利用をするべき。
性行動の喫煙等の生活習慣とのリンクが明らかになっている。そうした生活習慣や家庭環境といったリスクの高い対象への対策も重要。



Love Project 2007 in 946

地域で取り組む青少年の性に関するアンケート



本日は、シンポジウムにご参加いただき、誠にありがとうございました。
 本日の議論をより深め、地域で実行していくために、皆さまのご意見を頂戴いたしたく存じます。
 ご協力よろしくお願い申し上げます。
 以下の設問にお答え下さい。選択問題は当てはまるものに○(マル)をつけてください。

■あなた自身についてお答えください。

(二つ以上当てはまる場合は、当てはまるもの全てに○をつけてください)

- (1)性別 男・女
- (2)年齢 ____ 才
- (3)立場 子ども 親・どちらでもない
- (4)所属 中学校・高等学校・大学や専門学校など 働いている・主婦・その他
- (5)一緒に住んでいる人 (いない 保護者 祖父母 配偶者 配偶者以外の恋人 子ども・その他)

■青少年の性の問題について、どのように感じましたか。

	非常に当てはまる	まあ当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
(1)釧路市の現状を知って、改善すべきと思った。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(2)余暇時間が性行動に影響することについて、 認識が高まった。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(3)家族の性意識が性行動に影響することについて、 認識が高まった。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(4)デート性交渉場所が性行動に影響すること について、認識が高まった。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

■釧路(地方郊外)において、他地域と比べて危険な性交渉回数が多いという現状を改善するために、以下の活動はどれくらい効果的だと思いますか。

	非常に当てはまる	まあ当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
(1)スポーツや趣味を広げられるよう、施設数を増やしたり、受け入れ時間を延長する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(2)アルバイト・ボランティアなどができるように、雇用を増大し、広く募集する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(3)より多くの学生が部活を活発に行うよう、教育体制を改正する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(4)塾や習い事などができるように、施設数を増やしたり、受け入れ時間を延長する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(5)上記以外に、効果的と考えられる活動がありましたら、自由にお書きください。	()			

■青少年の性の問題に対して、以下の取り組みはどれくらい効果的だと思いますか。

- | | 非常に当てはまる | まあ当てはまる | あまり当てはまらない | 全く当てはまらない |
|--|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| (1) 青少年と地域の結びつきを深めるために、地域の市民団体が積極的に取り組む。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| (2) 性交渉以外の付き合い方の選択肢が増えるように、地域で支援する。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| (3) 余暇時間やデート性交渉場所の問題を、地域の街づくりとあわせて検討する。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| (4) 今日のような市民参加のシンポジウムを開催する。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| (5) 自由なご意見をお聞かせください。 [] | | | | |

■青少年の性の問題を改善するための、釧路市の取り組みについて感想をお答えください。

- | | 非常に当てはまる | まあ当てはまる | あまり当てはまらない | 全く当てはまらない |
|--|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| (1) 地域の様々な組織が連携して取り組んでいることについて、あなたの評価をお答えください。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| (2) このような活動を今後も継続すべきだと思う。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| (3) 自分も何らかの形で活動に参加してみたい。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

ご協力ありがとうございました。
パネルアンケートもよろしくお願い致します。

釧路市のよりよい街づくり
のためにもご協力お願い
いたします。

Love Project 2007 in 946

青少年活動支援センターに関するアンケート

本日は、わざわざ2階までお越しいただき、誠にありがとうございました。

釧路の街をより良い街にし、全国的な取り組みへと発展させるために、皆さまのご意見を頂戴いたしたく存じます。ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

以下の設問にお答え下さい。選択問題は当てはまるものに○(マル)をつけてください。

■あなた自身についてお答えください。(二つ以上当てはまる場合は、当てはまるもの全てに○をつけてください)

- (1)性別(男一女)
- (2)年齢 才
- (3)立場(子ども・親・どちらでもない)
- (4)所属(中学校・高等学校・大学や専門学校など・働いている・主婦・その他)
- (5)一緒に住んでいる人(いない・保護者・祖父母・配偶者・配偶者以外の恋人・子ども・その他)

■青少年の性の問題について、どのように感じましたか。10代女性の性行動に関する日本医療政策機構のパネル結果を見て、以下の問いにお答えください。

- (1)釧路市の現状を知って、改善すべきと思った。
非常に当てはまる・まあ当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない
- (2)余暇時間が性行動に影響することについて、認識が高まった。
非常に当てはまる・まあ当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない
- (3)家族の性意識が性行動に影響することについて、認識が高まった。
非常に当てはまる・まあ当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない
- (4)デート・性交渉場所が性行動に影響することについて、認識が高まった。
非常に当てはまる・まあ当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない

■釧路(地方郊外)において、他地域と比べて危険な性交渉回数が多いという現状を改善させるために、以下の活動はどれくらい効果的だと思いますか。10代女性の性行動に関する日本医療政策機構のパネル結果を見て、以下の問いにお答えください。

- (1)スポーツや趣味を広げられるよう、施設数を増やしたり、受け入れ時間を延長する。
非常に効果がある・まあ効果がある・あまり効果はない・全く効果はない
- (2)アルバイト・ボランティアなどができるように、雇用を増大し、広く募集する。
非常に効果がある・まあ効果がある・あまり効果はない・全く効果はない
- (3)より多くの学生が部活を活発に行うよう、教育体制を改正する。
非常に効果がある・まあ効果がある・あまり効果はない・全く効果はない

(4)塾や習い事などができるように、施設数を増やしたり、受け入れ時間を延長する。

非常に効果がある・まあ効果がある・あまり効果はない・全く効果はない

(5)上記以外に、効果的と考えられる活動がありましたら、自由にお書きください。

■『青少年活動支援センター』についてお考えをお答えください。本日お越しいただいた『青少年活動支援センター』は試作版ですが、今後、より良い『青少年活動支援センター』が皆さんの街にできることを想定してお答えください。

(1)性交渉以外の時間の過ごし方を見つけるために役立つ。

非常に効果がある・まあ効果がある・あまり効果はない・全く効果はない

(2)青少年と地域の結びつきが深まり、街の活性化に役立つ。

非常に効果がある・まあ効果がある・あまり効果はない・全く効果はない

(3)地域全体で青少年の健康を見守ろうという意識が高まる。

非常に効果がある・まあ効果がある・あまり効果はない・全く効果はない

(4)身近にあれば、今後も立ち寄ってみたいと思う。

非常に当てはまる・まあ当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない

(5)『青少年活動支援センター』をより良くするために、運営に関わることに興味がある。

非常に当てはまる・まあ当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない

(6)青少年の課外活動に対して、自分も何らかの形で支援したいと思う。

非常に当てはまる・まあ当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない

(7)『青少年活動支援センター』で提供して欲しい情報など、自由なご意見をお聞かせください。

(8)『青少年活動支援センター』以外に、性問題に効果的な取り組みがあれば、自由なご意見をお聞かせください

■青少年の性の問題を解決するための、釧路市の取り組みについて感想をお答えください。

(1)地域の様々な組織が連携して取り組んでいることについて、あなたの評価をお答えください。

高く評価する・まあ評価する・あまり評価しない・全く評価しない

(2)このような活動を今後も継続すべきだと思う。

非常に当てはまる・まあ当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない

(3)自分も何らかの形で活動に参加してみたい。

非常に当てはまる・まあ当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない

ご協力ありがとうございました

「千葉県における思春期事業に関する パイロットスタディ」

分担研究者 近藤 正晃 ジェームス

日本医療政策機構副代表理事

研究要旨

平成18年度研究から、都市都会における10代の性行動変数のうち最も対応すべき「性交渉人数」および、それに関与することが示された「性感染症教育」、「家族の性への意識」、「デート・性交渉場所」というキーワードをもとに、思春期事業の全国展開に向けて、千葉県において都市都会・中間地域における対策プログラムの検討を行った。

都市都会での対策案を検討するべく、千葉県・千葉市の多機関の関係者による検討会を行い、その結果「家族の性への意識」への対策と千葉市内の多機関の関係者による更なる検討を行うべく、千葉市内にてシンポジウムを開催し、多機関による協働の促進を図った。

また、千葉県内における中間地域のモデル事例として、八千代市の思春期保健ネットワーク会議の取り組みを鉏路市のノウハウの共有を行うことなどにより支援し、全国の自治体にとって有用な知見の集積を行った。

本研究の結果、都市都会においてはHIV/AIDSキャンペーンを中心とした性感染症教育の強化と家庭向けの対策が重要であること、中間地域においては地域の実情に応じて、他自治体の取り組みを参考に活動を展開すれば良いことが示された。

こうした活動を地域主体で実施するための、データ収集・施策マッチングなどのインフラ整備が求められる。

A. 研究背景

本研究の平成 17・18 年度研究では、性行動および性行動と環境要因の関連について、全国における 10 代男女の性行動に関する実態調査を実施した。全国的な実態調査の結果、望まない妊娠や性感染症に直結する変数として計算した「非避妊換算性交渉回数」を減少させるのに効果的な性行動、および、性行動の抑制に効果的な環境要因は、地域によって異なることが明らかになった

【図 A.1】。例えば、都市都会においては、性行動のうち特に性交渉人数が重要であるのに対し、地方郊外においては性交渉頻度が重要であることが示された。従って、これらに対する政策的打ち手も地域によって異なり、細かい対応が必要であることが確認された。また、性行動を抑制するために日本全体において効果的な環境要因として、「時間的余裕」、「家族の性への意識」、「デートの場所」、「性交渉場所」というキーワ

ードが抽出され、こうした環境要因への対策のためにも学校、行政に加えて、家庭や地域を巻き込んだ地域全体の協力体制が必要であることが確認された。

【図 A.1 : 平成 17 年度・18 年度研究から抽出されたキーワード】

B. 研究目的

本研究の目的は、地域の現状に合致した対策案を、多機関協働で立案し、実施し、モニターする「地域モデル」を、千葉県千葉市(都市都会のモデル)および八千代市(中間地域のモデル)におけるパイロットスタディを通じて確立することにある。

具体的には、釧路市と同様に千葉県において、それぞれの地域に特徴的な性行動・環境要因に影響を与えうる多機関を集め、効果的な議論形成の上施策立案し、それを実施の後、フィードバックを行なうという一連の流れを実施した【図 B.1】。

一連の流れの実施の中で、各自治体における対策プログラムを実行する上でのボトルネックとなりうる問題点とその解決策に関して適宜検討し、支援ツールを作成した。

1

【図 B.1 : 今回の研究概要】

C. 研究方法

1. 千葉県におけるパイロットスタディ

1.1. 関係者による対策事前検討

釧路市における一連の対策実施、評価

のパイロットスタディを踏まえて、比較的關係多機関の連携が進んでいない千葉県・千葉市において、都市都会における具体的施策につき、キーパーソンへのヒアリングの上で、検討会が 9 月 20 日(木)に【図 C.2.1】に示す関係者により行なわれた。その結果、本研究班が明らかにした都市都会における「性交渉人数」の問題の背景となる要因である「性感染症教育」、「家族の性への意識」「デート・性交渉場所」といったキーワードの重要性が確認され、HIV/AIDS キャンペーンの充実や、PTA 連絡協議会等を通じての保護者向けの講演、NPO を巻き込んだ活動の展開、公園などの場所への対策等が提案された。一方で、千葉市における多機関協働に関する困難についてもコメントがあり、時間的制約も考えて千葉市内においては釧路市と比して若干限定的なパイロットスタディの実施にとどめ、その代わりに本研究においては中間地域に属する千葉県八千代市をモデルとした介入を行い、同時に多機関協働をサポートするマニュアル等の支援ツールの開発することとなった。

【図 C.1.1 : 千葉事前検討会 参加者】

1.2. 対策案の実施

1.2.1. 千葉市におけるパイロットスタディ

事前検討会の結果、千葉市内においては特に「家族の性への意識」に焦点を置いた対策を行い、また同時に多機関協働の強化に向けて関係者等によるワークショップを行うこととなった。10 代の性の

¹ 支援ツールに関しては分担報告書「思春期の性の問題解決のための多機関協働支援ツール」を参照。

問題に関し、千葉県内で保護者向けの事業を行っている NPO 等の団体は確認できなかったため、東京都内にて学校・PTA 向けの講演会やシンポジウム等を行っている日本誕生学協会の協力のもと、千葉県・千葉市内の関係多機関で当該領域にも関心を持つと思われる団体に声を掛けることで、平成 19 年 12 月 16 日に千葉市のホテルプラザ菜の花大会議室他で実施した。

内容は【図 C.1.2】に示した通りで、10 代の性の現状について本研究班研究結果を含めて共有した上で、それぞれの参加者の立場に合わせた分科会を開催し、今後のそれぞれの活動の実践に役立てることを図った。

【図 C.1.2 : 千葉シンポジウムプログラム】

1.2.2. 八千代市におけるパイロットスタディ

千葉県八千代市においては、「健やか親子 21」の八千代市計画として「八千代市健康まちづくりプラン」を平成 16 年 3 月に策定し、重点課題として思春期の健やかな性と生に取り組むべく、平成 18 年 8 月に「八千代市思春期保健ネットワーク会議」が発足している。市の母子保健課の事務局のもと、地域の医療関係者・教育委員会・小中学校養護教諭・PTA 代表などで構成され、多機関協働による実践・評価を伴った取り組みを目指して、定期的な会議のみならず、市民への啓発活動などを行っている。

昨年度の本研究において八千代市が含

まれる中間地域の問題としては、地方郊外同様に「性交渉頻度」が重要であるということがわかっている。そこで、先進的取り組みを行っている釧路市の事例の共有を行い、また実際に釧路市において「八千代市思春期保健ネットワーク会議」メンバーが視察をし、情報交換を行うことで、八千代市における同様の取り組みのヒントを得た。

また、昨年度の本研究において都市都会の問題への事前の対策の必要性が考えられたことや、千葉県全体での思春期事業の推進の目的等から、事前検討会からの一連の流れとしての千葉市におけるパイロットスタディの内容・結果の共有を行った。

さらに、これらの結果に加えて、多機関協働による八千代市の思春期保健事業の更なる推進を目的としたファシリテーションスキルに関するワークショップを行った。²

【図 C.1.3 : 八千代市におけるパイロットスタディ】

1.3. 事後評価ならびに今後の対策再検討

千葉市における対策案に関しては時間的制約により今年度中には実施されなかったが、市内の産婦人科医らの有志による活動が予定されている。

また、八千代市においてはこれまでと同様に定期的な会議の開催が予定されており、その中で具体的対策に関する議論

² 詳細は分担報告書「思春期の性の問題解決のための多機関協働支援ツール」を参照。

が深まるものと期待される。

D. 研究結果

1. 千葉市におけるパイロットスタディ

1.1. シンポジウム結果

1.1.1. 参加人数

千葉市内外から約 70 名の参加が得られた。そのうち 43 名からアンケートを回収した。

学校関係者、医療関係者、行政、NPO その他各方面からの参加者が得られた。

【図 D.1.1 : シンポジウム（十代の性）の開催結果】

1.1.2. 概要

会はず、日本誕生学協会の大葉ナナコ氏により本シンポジウムの趣旨、特に保護者として知っておいて欲しいことなどにつき挨拶があった。

続いて、近藤からこれまでの当研究の概略の説明があり、その後、家坂清子氏により 10 代の性の現状の報告があった。

午後からは、分科会に別れ、それぞれに実践的なワークショップを行った。

分科会 1 では、「地域全体での情報共有 & アクションプラン作り～議論から行動へ」と題し、保護者、専門家それぞれの立場から必要な情報の共有と、具体的な対策をテーマにし、多機関の行動プランがつながる場を目指した³。鉏路市や八千

代市の事例の共有の後、地域のアクションプランづくりとして、

1. 千葉市が保護者向けに働きかけをする方法

2. 性感染症防止教育の展開方法

3. 性行動の場所対策

というテーマを割り当て、取り組んだ。

結果的に、参加者が当事者意識を持つことができ、現場にて実践できる案(【図 D.1.2】～【図 D.1.2】)が多く出されたことから、地域の活性化にもなったといえる。実際に、産婦人科医師が今後も協働を続け、活動しようと言をし、分科会現場から有志を募り、名簿を作成する場面も見られ、さっそく市民からのアクションが起きるなど、大きな収穫があった。その他各自が明日から始めることとして【図 D.1.11】のような内容があった。

【図 D.1.2～10 : 分科会①から出されたアクションプラン】

【図 D.1.11 : シンポジウム 分科会① 結果(明日から始めること)】

分科会 2 では「娘たちとのコミュニケーション術～セルフケア力と自尊感情を高める NLP～」と題し、10 代の女性たちが耳をかす“言語”を用いて、どのように効果的にメッセージが伝えられるかという課題に対し、性についての親の見解や「正しいこと」の伝え方ではなく、親がそばにいないときに、正しい判断ができるようなメッセージを渡すために、親はどのような心構えで、どのようなことばや表情で話をするのが効果的なのかという観点で行ったワークショップを行っ

³詳細は分担報告書「思春期の性の問題解決のための多機関協働支援ツール」を参照。

た。「言い聞かせる」ためではなく、何の為にコミュニケーションをするのかという目的を明確にすることの大切さや、禁止や命令形ではない話し方が参考になったという感想が多くあった。

分科会3では「息子たちとのコミュニケーション術～親子コーチングスキルと本音の伝え方～」と題し、まず、10代の男の子、そして今の世の中に対して、親の側にどういったイメージがあるのかをブレインストーミングした。その中では「とんでもない世の中になってきている」「子育てが大変な世の中になってきている」「女の子を妊娠させてしまうのではないだろうか」「思春期の子供は怪物のようだ」「男の子は、体格も腕力も親を上回るようになるので、怖い」といった意見が中心であり、漠然として根拠が薄い不安のもと、テレビやマスコミの垂れ流す情報に翻弄されている印象であった。そこで、まず、その状況は明らかに間違っているという講師のメッセージを強く伝え、疑ったり、怖がったり、不安に思うよりもまずは等身大の息子と向き合うにはどうしたらいいのかをグループワークで話し合った。

分科会4では「親にも気持ちがある～親のネットワークづくりのためのアサーティブネス～」と題し、親自身が自分と向き合いながら、我が子の性に関する成長にどう向き合い、関わっていくかを、主体的に考えるという視点で展開した。導入の後、それぞれが「我が子」に対し、どの時期に性に関する話を語ればよい

かを、自分自身の十代の経験、今の家庭の事情や価値観などを振り返りながら、子育て支援プランとして作成した。発表する時間では、各家庭の考え方やアプローチの違いから新しい観点を与え合い、違いを認める学び多き時間となった。親自身がエンパワーメントされ、わが子に対する愛情を再認識することにつながった。親自身が現状を知り、子どもを守っていく当事者として立つ必要性を確認することができた。

1.1.3. アンケート結果

i. 回答者属性

アンケートを実施した結果、アンケート回収数は43名(男性8名、女性34名、無回答1名)、15～19歳2名(5%)、千葉県在住19名(44%)であった。

立場に関しては【図D.1.13】の通りで学校関係者、医療関係者、行政、NPOその他多様な立場であった。

【図D.1.12 : 属性(性別、年齢、地域)】

【図D.1.13 : 属性(立場)】

ii. シンポジウムの各プログラムに関して

基調講演、分科会各プログラム全て「非常に良かった」もしくは「まあ良かった」と大変高い満足度が得られている。

また、10代の性の問題に関し、9割が改善すべきと考え、「家族の性への意識」「性感染症教育」「デート・性交渉場所」という都市都会のリスク要因に関しても、それぞれ93%、90%、88%と9割前後が認識が深まったと答えている。

【図 D.1.14 : 各プログラムの満足度】

【図 D.1.15 : 10 代の性の問題について】

各分科会に関して、まず分科会①に参加して、「地域全体での協力の重要性への理解が深まった」と 100% (非常に当てはまる 58%、まあ当てはまる 42%) が回答し、他団体の取り組みに対する理解も 84% (非常に当てはまる 52%、まあ当てはまる 32%) で深まったとの答えがあった。また、「こういったワークショップは地域での取り組みに効果的」であると 100% (非常に当てはまる 77%、まあ当てはまる 23%) が答えていた。

分科会②～④参加者に関しても、「コミュニケーションのとり方が深まった」と全員(非常に当てはまる 64%、まあ当てはまる 36%) が考え、このようなワークショップの効果を全員(非常に当てはまる 55%、まあ当てはまる 45%)が認めていた。

【図 D.1.16 : 分科会感想】

【図 D.1.17 : 分科会感想 2】

iii. 地域での取り組みに関して

それぞれが住む地域の思春期の性に関する事業の評価について聞いてみたところ、全体で 31%(高く評価 12%、まあ評価 19%)、千葉市在住では 27%(高く評価 11%、まあ評価 16%)と非常に厳しい評価であった。

今後の取り組みに関し、「自治体がさらに推進すべき」と 86% (非常に当てはまる 77%、まあ当てはまる 9%) が回答し、「市民が主体的に推進すべき」との回答も

84% (非常に当てはまる 58%、まあ当てはまる 26%) と非常に多く、「自分も何らかの形で活動に参加してみたい」と回答したのは 89% (非常に当てはまる 47%、まあ当てはまる 42%) にも上った。

【図 D.1.18 : 地域の取り組み】

【図 D.1.19 : 地域の取り組み 2】

iv. その他自由意見

各分科会でどういった話が聞きたいか、という意見に関し、分科会前にとったアンケートの結果を【図 D.1.20】に示す。また、これから自分がしようと思うこと、保護者向けの事業についての意見、その他 10 代の性の問題への取り組みについて自由に記載してもらった内容を、【図 D.1.21】～【図 D.1.23】に示す。

【図 D.1.20 : シンポジウム分科会前アンケート結果】

【図 D.1.21 : 具体的にこうしてみようと思うこと】

【図 D.1.22 : 保護者向けの事業について】

【図 D.1.23 : その他 10 代の性の問題への取り組みについて】

v. 八千代市におけるパイロットスタディ

八千代市は鉏路市と人口規模がほぼ等しく、直接的に参考になる面が多く存在すると考えられた。そのため、鉏路市の取り組みに関しては、取り組み体制に始まり、予算や連携・協働の状況、これまでの

成果や評価等多岐にわたる質問を含めた情報交換が行われた。特に、具体的に事業を実践する上での詳細な話があり、大変参考になったと参加した「八千代市思春期保健ネットワーク会議」メンバーも満足していた。

一方、千葉市の今回のシンポジウムを含めた活動からは、多機関協働を行っていく上での困難が改めて浮き彫りとなり、その後のファシリテーションのワークショップも含めて、ネットワークの強化を地道に着実にやっていくことの重要性が再確認された。

これらの結果も参考に、3月2日には思春期保健シンポジウムとして、八千代市長、医師会長、教育長らも巻き込んだ市ぐるみのイベントが開催され、大変盛況を博し、八千代市における今後の思春期保健事業の更なる展開が約束された。

E. 考察

1. 都市都会の場合の対策

1.1. アンケート結果から

今回の千葉市におけるシンポジウムにおいては、従来の同様のシンポジウムとしては満足の行く参加者が得られたが、鉦路市におけるような規模での実施は不可能であった。

こうしたイベントを実施するにあたっての多機関による協力の重要性を再確認すると同時に、逆説的にはあるが、鉦路市で行ったような既存の大きな祭事・イベントを利用するという手法の有効性が確認されたともいえよう。

結果として、アンケートからは、保護者としても、非常に意識の高い層が集ま

っていたことが推測され、しばしば言われるように、これらの層に対する対策よりもより重点的に対策すべき層へのアプローチが不十分であったことは否定できない。

これらのことを加味の上、アンケート結果について見ると、全体として今回のようなプログラムの評価は非常に高く、プログラムへの満足度のみならず、本研究班によって明らかとなった都市都会のリスク要因である「家族の性への意識」「性感染症教育」「デート・性交渉場所」に関する認識や地域での協働の重要性への認識も深まり、今後自らも何らかの取り組みをしたいと考え、さらには具体的なやってみようと思うことまで導き出せたなど、こういった講座は従来行われているものではあるが、実践的なワークショップを含めて行うことの有効性が示されたと言えよう。

事前検討会でも確認された内容であるが、千葉市内では地域の思春期保健事業に対する不満もしくは問題意識が大きく、市民を上手く巻き込んだ多機関協働による10代の性への取り組みが強く求められている。

1.2. 親向け事業

10代の性の問題に関する保護者向けの事業は体系だっで行われてはいない。各地域における医療関係者等問題意識の高い人間が個別に講演会を行っているのが現状である。

先進的取り組みを行っている鉦路市においても、ある程度の回数保護者向けの講演会が行われているのに加えて、中